

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成24年 9月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 維持草地では、刈り取り危険帯の時期を避けて収穫、施肥します。
- ◆ トウモロコシは、完熟期に近い圃場も見受けられるので、熟期を確認し速やかに収穫作業を進めます。

1 維持草地の管理（刈り取り危険帯の時期）

- (1) オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日で日平均気温が 15℃くらいになると、茎葉の再生が緩慢となり、根への貯蔵養分の蓄積が始まり、越冬と翌春の萌芽・再生に備えます。また、日平均気温 5℃以下で休眠に入ります。この根への養分蓄積が活発になる時期が、刈り取り危険帯の時期です。この時期の刈り取りや窒素施肥(堆肥の多量施用も含む)は、再生を促し、根に養分が十分に蓄積せず、越冬株数や翌年の収量が減少するので、この期間を避けて行います。
- (2) 刈り取り危険帯の時期の目安は、下表を参考にしてください。

地域別の日平均気温（平年値）と刈り取り危険帯の時期の目安

	刈り取り危険帯の時期の目安	参考	
		平均気温が 15℃以下となる日	平均気温が 5℃以下となる日
奥中山	10月上旬～中旬	9月22日	11月10日
盛岡	10月中旬～下旬	10月3日	11月19日
久慈	10月中旬～下旬	10月4日	11月23日
江刺	10月中旬～下旬	10月6日	11月21日
一関	10月下旬～11月上旬	10月10日	11月26日

*アメダスより

2 トウモロコシの収穫調製

黄熟期（農作物技術情報第6号を参照）を確認して作業に入りますが、完熟期に近い圃場も見受けられますので、以下に留意し収穫調製を行います。

なお、市町村単位に飼料用トウモロコシ等夏作飼料作物の利用自粛の要請と解除が行われていますので、放射性物質検査結果を確認してから利用するようにしてください。

- (1) 完熟期では、子実が硬く、また詰込水分がやや低くなりますので、破碎処理を行わない場合は、収穫時の切断長を 10mm 未満とし、子実の消化率を確保すると共にサイロへの詰込密度を高めます。また、完熟期で破碎処理を行う場合は、切断長 19mm、ローラ間隙 3mm が推奨値です。
- (2) 刈り遅れや霜にあたった場合、すす紋病等の罹病が多い場合は、水分含量が低く、サイロへの詰め込み密度が低下することから、開封後、二次発酵が起こりやすくなります。ギ酸やプロピオン酸などの添加剤の使用を検討しましょう。
- (3) 刈り遅れた圃場では、カビが増殖している場合があります。このサイレージを開封し給与するときは、カビの有無をよく確認し、カビは取り除くとともに、ビタミン給与量を増やすことや、カビ毒吸着剤の使用を検討します。
- (4) その他

熟期に限らず、倒伏や折損の収穫調製では、次の点に留意します。

ア できるだけ早く収穫します。

イ 収穫にあたっては、ハーベスタの収穫方向をよく考え、作業機の運行速度を控えめにします。また、やや高刈りして収穫時の土壌の混入を避けましょう。

- ウ 切断長が粗くなりやすいことから詰込み密度を確保するために、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質低下を抑制しましょう。
- エ 黄熟期前の収穫となる場合は、乳酸菌製剤の添加を検討します。

農作物技術情報第8号は10月25日(木)発行の予定です。
気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
農作業 笑顔の豊作 無事故から

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。